

第1回抗菌薬適正使用に関するセミナー主旨

【活動目的】

学会会員を対象とした抗菌薬適正使用支援チーム（antimicrobial stewardship team：AST）に関する教育

【活動主旨】

2015年WHOより「Global action plan on antimicrobial resistance」、2016年日本においても2016年「薬剤耐性(AMR)対策アクションプラン2016-2020」が策定され、政府レベルで薬剤耐性菌対策を推進する方針が打ち出されました。これらを受け環境感染学会を含む国内8関連学会は、「抗菌薬適正使用支援（Antimicrobial Stewardship：AS）プログラム推進のために」を作成し、国民一丸となって取り組む方向性を示しました。さらに、2018年4月から診療報酬上も抗菌薬適正使用支援（AS）加算が認められ、国内の各医療機関はこれらを院内で推進するチーム（Antimicrobial Stewardship Team：AST）を設置して抗菌薬の適正使用を推進しています。これまで、化学療法学会や感染症学会など感染症関連学会では、医師や薬剤師といった職種を対象として高度な専門知識の習得を図る制度や講習会を充実してきました。一方、ASTは医師や薬剤師のみならず看護師、臨床検査技師等のメンバーから構成され、ASを実践する上で各メンバーは抗菌薬の知識や感染症診療の基本、細菌検査の基礎や結果の解釈、AS活動のアウトカムを評価する統計や疫学等の一定の知識とともに、ICTやリンクナースとの連携も求められます。

本コースのセミナーは前出の加算算定の有無に関わらず、これからAST活動を始める施設、ICTがAST活動を兼ねる施設、ASTを構成する医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師等のメンバーを対象とします。このメンバーすべてが必要な基礎知識を習得した上で活動することにより、効果的に各職種の専門性を発揮することでAST全体がレベルアップし、結果として抗菌薬適正使用が可能になると考えます。

「第1回抗菌薬適正使用に関するセミナー」スケジュール

- 10:00～10:15 総論
ASTに関する考え方、構成職種とそれぞれの役割などに関して、本コースの導入となる総論的内容を述べる
- 10:15～11:05 抗菌薬の薬理、体内動態、副作用
汎用されるβ-ラクタム系薬を中心に、基礎的で重要な知識を難しくならないように述べる
- 11:05～11:10 休憩
- 11:10～12:00 感染症診療の基礎
主訴や現病歴、身体所見から感染症のフォーカスや起因病原体の推定に至る、一連の感染症診療の流れを述べる
- 12:00～13:00 昼食
- 13:00～13:50 微生物検査
微生物検査室がない施設においても、抗菌薬適正使用に活用できる分離培養、感受性の読み方について述べる
- 13:50～14:40 抗菌薬の選択
抗菌薬のスペクトラム、薬剤耐性菌と抗菌薬、細菌検査結果に基づく抗菌薬の選択、感染臓器と抗菌薬の選択について述べる
- 14:40～15:00 休憩
- 15:00～15:50 感染症に必要な統計、疫学
プロセス指標、アウトカム指標につながる抗菌薬の集計法とこれらをいかに評価するかについて述べる
- 15:50～16:40 ASTにおける看護師の役割
主要な活動がICTになりがちな看護師が、ASTにどのように関わり、貢献できうるのかを紹介する
- 16:40～17:10 総合討論